

責任者	教育学研究科委員長	作成部局	教育学研究科
-----	-----------	------	--------

### 2021年度に向けた教育研究目標

<b>【A票：教育研究目標1】</b>									
(タイトル) 再編後の教育学研究科の教育・研究内容の周知									
(狙い内容) 2017年度に再編する教育学研究科の教育・研究内容の周知につとめる。									
<b>1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)</b> 再編後の教育学研究科の教育・研究内容の周知につとめ、前期課程および後期課程入学者数(定員充足率)を増やす。									
<変更時記入欄>									
<変更理由記入欄：2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>									
<b>2. 達成度評価</b>									
評価指標	前期課程および後期課程入学者数(定員充足率)					評価尺度	A：70%以上 B：60%以上70%未満 C：50%以上60%未満 D：50%未満	変更有無  有・無	
	<変更時記入欄>						<変更時記入欄>		A： B： C： D：
<b>3. 年度毎の目標値</b>									
		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		A (83%)	答申に基づく入試の実施 (9月, 2月)	A (90%)	A (95%)	A (100%)	A (100%)	A (100%)	
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度：A~D	<実績> A	実績	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> A					有・無
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 入学者数前期6名 後期1名		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 入学者数前期6名(9月入試)					
<b>【2016年度の進捗状況について】</b>								↓	
前期課程においては第一次入試の受験者は7名、第二次入試の受験者は2名、後期課程(第二次入試のみ)においては受験生が4名であった。2016年度合格者数から定員を満たす可能性があることがわかった。									
<変更理由記入欄：評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>									

### 2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？	→ はい・いいえ
<上記で「いいえ」を選んだ場合>	
①理由：	
②今後必要な取組み：	

<p><b>&lt;評価専門委員会・第三者評価結果&gt; 2017年1月27日公示</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の進捗評価においてすでにAに達しているようですので、新たな目標が設定されることが望まれます。(A)</li> <li>・「再編後の教育学研究科の教育・研究内容の周知」という目標は教育学研究科の「教育研究目標」と言えるのでしょうか？違和感を持ちます。また、この目標と「定員充足率」との関係がよく分かりません。さらに、「評価尺度」の「A~D」における充足率のパーセンテージの設定は妥当なのでしょうか。実績からして修正・変更の必要はないのでしょうか。(D)</li> <li>・教育研究目標1の達成度評価として定員充足率を評価指標とすることは適切ですが、すでに2015年度時点で目標を達成しており、目標値の見直しが望まれません。(I)</li> </ul>
---

**【A票:教育研究目標2】**

(タイトル)

研究者養成コースの教育研究目標

(狙い内容)

前期課程「研究者養成コース」では現代の複雑で困難な教育環境や人間形成上の問題に向き合い、それを学問的に探究し論理的に表現できる教育学・保育学研究者の養成を目的としたコースワークをワークを行い、後期課程への進学につなげる。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

大学院生が国内外に研究内容を発信し、研究者として自立できるよう基礎を身につけられる教育研究環境を整える。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

**2. 達成度評価**

評価指標	①研究者支援コースへの入学者(あるいは定員充足率) ②学内外の研究支援制度に応募する学生数 ③前期課程から後期課程への進学者	評価尺度	A : 70%以上 B : 60%以上70%未満 C : 50%以上60%未満 D : 50%未満	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A : B : C : D :	

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		②0回/1名 ③なし	答申に基づく入試の実施 (9月, 2月)	新カリキュラムの実施(初年度) ①1名以上 ②1回以上/1名	①1名以上 ②1回以上/1名	①定員の1/2 ②1回以上/1名 ③1名以上	①定員の1/2 ②1回以上/1名 ③1名以上	①定員の1/2 ②1回以上/1名 ③1名以上	有・無
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績>	実績	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> A					
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績>		<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標>					

**【2016年度の進捗状況について】**

①2017年度より再編する本研究科の初めての入試を9月に実施した。入試の種類、審査基準、編集委員の設置などの変更点が機能し、無事に入試を終えることが出来た。前期課程はすでに定員を満たしたが、今回は社会人の受験生はいなかった。②学会参加支援申請者2名、研究成果公開促進助成制度申請者1名

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

**2016年度の取組み状況の確認**

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

**<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示**

・教育研究目標2の達成度評価の評価尺度が分かりづらく、見直しが求められます。(I)

**【A票:教育研究目標3】**

(タイトル)

奉仕的なリーダーシップを発揮することのできるような研究マインドを有する高度な実践者の育成

(狙い内容)

前期課程「高度教育コース」では、奉仕的なリーダーシップを発揮することのできるような研究マインドを有する高度な実践者の育成を目的としたコースワークを行う。

**1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)**

- ①大学院生が教育研究の調査・実践対象に困ることない教育研究環境を整える。
- ②社会の要請に応えられる人材を輩出し、就職ができるように研究科が組織的な支援を行い、教育・保育機関への就職を促す教育研究環境を整える。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

**2. 達成度評価**

評価指標	①高度教育コースの入学者数(あるいは定員充足率) ②本研究科の教育・研究に対する保育・教育現場の協力機関数	評価尺度	A : 70%以上 B : 60% C : 50% D : 50%未満	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A : B : C : D :	

**3. 年度毎の目標値**

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		②組織的な支援なし	答申に基づく入試の実施 (9月, 2月)	新カリキュラムの 実施(初年度) ①1名以上②1箇 所以上	①1名以上 ②1回以上/1名	①定員の1/2 ②1回以上/1名 ③1名以上	①定員の 1/2 ②1回以上 /1名 ③1名以上	①定員の 1/2 ②1回以上 /1名 ③1名以上	有・無
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績>	実績	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> B					
	見込 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績>		<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標>					

【2016年度の進捗状況について】 ←

- ①9月の入試の結果、高度教育コースには3名の合格者があり、全員入学予定である。②については2017年度からの行動目標であるため進捗状況はなし。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

**2016年度の取組み状況の確認**

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? →  はい・  いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

**<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示**

- ・2021年度のめざす姿(目標)が、「困ることない教育研究環境を整える」、「就職を促す教育研究環境を整える」とインプットに関する目標になっています。また、年度ごとの目標もアウトプットに関する目標になっています。結果としてどのような卒業生を、何人送り出すのかという、アウトカムに関する目標も定めることが期待されます。(B)
- ・協力機関数に関する取組みは、2017年度以降に目標が立てられていますが、2016年度は何らかの何らかの検討などが進められたのでしょうか?もし何らかの取組みがあったのであれば、進捗状況欄に記載しておくことが望まれます。(G)
- ・教育研究目標3の達成度評価の評価尺度が分かりづらく、見直しが求められます。(I)